



## Index

### トピック ... P2

最近公開した「標準外利用の事例と標準仕様に沿った使い方のガイド」について、1月に開催した説明会の模様を含めて紹介しています。

### 協議会の活動紹介 ... P6

- ・「流通 BMS 普及推進説明会 in 仙台」開催案内
- ・リテールテック Japan で流通 BMS を紹介
- ・2013 年度導入支援活動実績

### シリーズ 業界のキーマンに聞く ... P9

食肉流通標準化システム協議会の会長である沓澤宏紀氏（JA 全農ミートフーズ(株)情報システム部長）にお聞きしました。

### キーワード解説 ... P11

今回は「GS1-128 と物流ラベル」について紹介しています。

### 流通 BMS 協議会会員 ... P12

### 社名公開企業 ... P15

### ロゴマーク使用許諾製品 ... P15

### 流通 BMS 講座 ... P16

### 入門講座（バーコード、電子タグ） ... P17

### 編集後記 ... P18

## 『標準外利用の事例と 標準仕様に沿った使い方のガイド』を公開

採用が進む流通 BMS を、安心して正しく使ってもらい、  
本来出せる効果を阻むことがないように

流通 BMS 協議会では『標準外利用の事例と標準仕様に沿った使い方のガイド』(以降本文中『ガイド』)を公開した。本年度進めて来ていた流通 BMS 採用時に標準に沿っていない事例の調査の結果を、これまでに分かっている範囲でまとめたものである。

流通 BMS は流通業界の EDI 標準仕様として採用が進んできており、既に 5 千数百社<sup>注)</sup>の導入済み企業があることが推計されている。特に小売業の EDI が流通 BMS の採用によって標準化され、小売業別の仕様が劇的に減ることによって、卸・メーカーの EDI 対応の仕組みが共通化され、小売業別に大きなコストがかからなくなり、情報連携が進み、流通業界全体での効率化が実現すると期待されている。

注) 流通 BMS 協議会が主要な流通 BMS 対応ソリューション提供企業の協力を得て推計

流通 BMS 導入企業が期待された効果を実現しつつある一方、導入する小売業が既存のシステムをベースに考え流通 BMS の仕様について理解が不十分であった場合や、小売業を支援する IT ベンダーの流通 BMS に対する知識・経験が不足し、誤解や間違いがある場合などで、流通 BMS の実装にあたり標準仕様に沿っていない使い方をしてしまっている事例も発生してきていた。

### 標準外利用事例の調査と『ガイド』公開へ

このような事例が増えて行くと流通 BMS の意義が失われることになるため、流通 BMS 協議会では対策として会員団体・関係者にご協力いただきながら調査を進めてきた。未だ一部の事案についてのみであるが、標準仕様に沿っていない事例とその原因について詳細が確認でき、同様の事例が他に発生しないように周知が必要と考えられた。

この結果をまず主要な関係者に周知するべく正会員団体と支援会員企業を対象とした説明会を開催した。この際の資料を公開用に改訂したものが今回公開した『ガイド』である。『ガイド』の公開により次のような効果を狙っている。

1. 流通 BMS の標準仕様に沿っていない事例を知ることで、同様の事例発生を防ぐ。
2. 標準に沿って実装することの大切さを周知する。
3. このような活動をしていることを公表することで、標準仕様を正しく使おうという意識を高める。

### 協議会会員向けの説明会を開催

正会員団体と支援会員企業を対象とした説明会は、1月24日(木)【東京】、1月30日(水)【大阪】の両日で、「流通 BMS 普及推進説明会 一標準外事例の解説と標準採用の効果一」と題して開催した。この説明会では調査結果の報告を行うだけでなく、改めて標準利用の効果を認識していただくために、既に流通 BMS に取り組んでいる卸企業 4 社にご講演いただいた。

ご講演いただいた内容は以下のようなものである。

●花王カスタマーマーケティング 【東京開催】  
花王カスタマーマーケティング(株) カスタマー  
トレードセンター 流通システムグループ 斎藤  
和志チームリーダーに講演いただいた。

花王グループでは、流通 BMS 対応企業数が 2011 年の 42 社から 2012 年には 94 社と倍以上になっている。斎藤氏は「日々業務を行っていても流通 BMS の言葉を聞かないことはありません

ん。普及拡大していることを実感しています」と話した。また、「昨年の対応実績から、平均すると月に4企業以上の対応をしており、流通BMSではない頃と比べ、個別のシステム開発などの工程を短縮できていることも対応企業数からわかります」と標準化の効果を語った。今年に入っても流通BMS導入の勢いが止まらないという。

同社では標準に沿わない利用が増えてくることを懸念している。斎藤氏は、「流通BMS導入の真の目的は、日本の流通を強くすることにあると考えています。今はSCMプロセス全体の効率化・コストダウンに向け流通が変われるかの過渡期であり踏ん張りどころです」と強調した。さらに、同氏は「標準利用を拡大する上では、小売業のシステム担当者は勿論、小売業を支援するIT関連企業が標準をきちんと理解し、小売業に対して流通BMSを正しく活用するための提案をしていただきたい」と呼びかけた。



《東京会場の様子》

## ●伊藤忠食品 【東京開催】

伊藤忠食品(株) 情報システム本部 竹腰本部長に講演いただいた。

伊藤忠食品でも流通BMSの対応企業は着実に増えている。そのような中であまり標準が利用されていないのが物流ラベルで、流通BMSでは物流ラベルも標準化しているが、実際は微妙に位置

が異なっているなど、個別対応が必要になっている。「これがなくなればさらに効率化に繋がります」と、竹腰氏は語った。

流通BMS活用のメリットとして、効率性、有効性、経済性の3つに分類し、効率性としては開発工数の削減、管理の簡素化、通信時間の削減を、有効性としては物流作業精度の向上、経済性としては通信コスト削減、アプリ資産の減少が上げられるという。

同社では標準を採用することで、従来のEDIと比べ1社あたりの開発期間が3分の2になり、さらに、開発時の問合せ確認の時間が削減されている。「特に流通BMSで用意されているマッピングシートなどの資料を細かく用意してもらえたのが大きいです」と竹腰氏は話した。

## ●山星屋 【大阪開催】

(株)山星屋 情報システム部 情報企画課 古田課長代理に講演いただいた。

山星屋でも対応企業は徐々にではあるが増えており、今後さらに増えていくと期待している。同社では、従来は小売毎にフォーマットが違うので個別の変換プログラムや設定ファイルを用意し対応していたが、流通BMSではフォーマットが共通化されているので、変換プログラムが共通化でき、保守開発や維持管理の工数削減につながっている。さらに、データ仕様のなかでも特に個別の項目の確認の時間が短縮できており、システム導入工数を約4割削減している。

最後に古田氏は「流通BMSは小売業、卸・メーカーの双方にとってメリットのある仕組みで、小売業の導入が増えるほど卸・メーカーにとってはそのメリットが大きくなります。皆が標準を遵守して正しく利用することで普及拡大し、業務の効率化が進み、サプライチェーン全体の効率化に繋がるので、標準を大事にして取り組んでいきましょう」と呼びかけた。



《大阪会場の様子》

## ●加藤産業 【大阪開催】

加藤産業(株) システム本部 高原本部長補佐に講演いただいた。

冒頭、同氏は「2012年の流通BMS対応企業数は飛躍的に増加しました。2013年も既に対応依頼の話がきており、さらに伸びる気配です」と語った。

加藤産業では、標準の効果として開発の生産性がJCA手順の時と比べて約2倍も上がっている。

同社は、流通BMSを導入するかどうか悩んでいる小売業から相談を受けることもある。高原氏は小売業のシステムをサポートしているIT関連企業に向けて、流通BMSが皆で推進している標準のEDIであることを話すと導入の後押しをする効果があると伝えた。

最後に高原氏は「標準化を進めることは加藤産業にとっても省力化になるし、ひいては、サプライチェーン全体の合理化に繋がると思って頑張っています。3年後に振り返り、こういった努力が、流通業界では進んだ使い方をしている、良く練られたシステムだと言われることを夢見て頑張ります」と締め括った。

## 公開された『ガイド』の概要

公開した『ガイド』には、以下のような事例が掲載されている。詳細については、流通BMS協議会ホームページより「標準仕様に沿って使う」のページから確認していただきたい。

### 凡例：【発注】

…流通BMSの発注メッセージ

〔自由使用欄〕(231)

…メッセージ項目番号231の、メッセージ項目名「自由使用欄」

1. 【自由使用欄】(231)〔自由使用欄半角カナ〕(232)〔ラベル自由使用欄半角カナ〕(234)の使い方  
⇒これらの項目の値で相手側に処理を判断させている事例が複数報告されている。他に適切な項目があるのに使わず、安易にこれらの項目を使う事例が多くなると取引相手毎にシステムに変更を加える必要があり、非効率を生むことになる。これらの項目の値で相手側に処理を判断させる使い方はせず、そのまま印字する・そのまま転記して返す、という範囲の使い方限定する。
2. 【直接納品先コード】(27)の使い方  
⇒この項目には小売側で商談時に取り決めた納品先をセットする。
3. 【取引付属番号】(122)の使い方  
⇒小売側でセットした値を取引先側で変更するような運用をせず、取引先側で付番した情報を渡す場合には【出荷】の〔出荷者管理番号〕(324)や、〔元取引番号〕(322)へセットする。
4. 【出荷梱包】の運用方法  
⇒全欠品の場合の【出荷梱包】を受け取れるようにする。また、複数の〔取引番号(発注・返品)〕(121)に対して商品・納品先・納品日でまとめた形の【出荷梱包】を返すことはせず、〔取引番号(発注・返品)〕(121)毎に【出荷梱包】を返すようにする。

## 5. [ITFコード(集合包装GTIN)](76)の扱い

⇒ [ITFコード(集合包装GTIN)](76)を半角スペースで埋める使い方をしてきた事例があった。必須項目である[ITFコード(集合包装GTIN)](76)は、未使用時には“0”をセットする。

## 6. [最終納品先コード](31)の使い方

⇒ [最終納品先コード](31)に店舗コードや売り場担当者コードをセットして梱包を分けるための情報として使っている事例があった。[最終納品先コード](31)は、商品が納品される場所(小売の物流センターや店舗)を表すコードとして使う。梱包を分けるためのキーとしては、[陳列場所コード](38)を使用する。

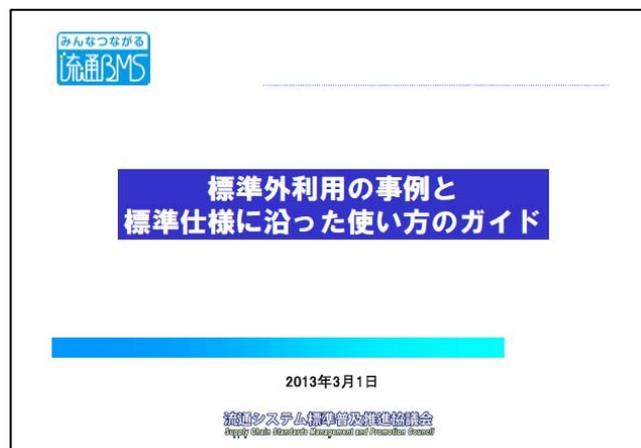
## 7. 任意項目が未使用の場合のXMLタグ

⇒ 使用していない任意項目のXMLタグは不要であるため残さず省略する方が望ましい。XMLタグを残した場合でも省略した場合でもメッセージ受信側では正常に処理できるべきである。

## 8. [商品区分](171)の使い方

⇒ [商品区分](171)にセットされている値を、[取引付属番号](122)の値を判断して卸・メーカー側で変更し、変更後の[商品区分](171)順に並んだ【出荷梱包】とする使い方があった。[商品区分](171)は小売がセットする項目であ

り、卸・メーカーが他の項目を参照して変更することはせず[梱包NO](217)でソートされた状態で、定番と特売の取引明細とすることで対応する。



《公開された『ガイド』》

### 今後も調査活動を継続

流通BMS協議会では、今後も標準外使用の事例調査を継続するとともに、今回公開した『ガイド』の内容を更新して行く予定である。標準外にあたる事例について何か情報をお持ちの方は、是非、流通BMS協議会ホームページからご報告いただきたい。

また、現在は標準仕様として決められていないもので標準化するべき内容として正会員団体から提案されてくるものについては、標準の維持管理事業の一環として別途対応をすすめ、流通BMSが採用企業にとって利便性の高い標準仕様となるようにしていく。

『標準仕様に沿って使う』はこちらから⇒<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/standard/guide.html>



## 「流通 BMS 普及推進説明会 in 仙台」開催 3月21日(木) トラストシティカンファレンス仙台で

本協議会主催の「流通 BMS 普及推進説明会 in 仙台」（受講料無料）を3月21日（木）14時から仙台のトラストシティカンファレンス仙台で開催する。

大手から中堅・中小の流通企業で流通 BMS の導入が広がる中、新規導入を検討する小売、卸・メーカーが急増している。そのような中で、「流通 BMS という言葉は新聞等で知っているけどよく分からない」、「導入検討を始めたがどう進めればよいか分からない」といった声も多く耳にするようになった。

同協議会ではそういった要望に応えるため、流通 BMS の概要や最新状況を伝えるとともに、導入済企業が導入効果などについて紹介する。

会場では、併設で流通 BMS の製品・サービスを提供する IT 企業 3 社による“相談・展示スペース”を設け、より具体的な相談にも応えるようになっている。

相談・展示スペース協力企業

- ・(株)SJC
- ・(株)日立システムズ
- ・富士通エフ・アイ・ピー(株)

申込みは、流通 BMS 協議会ホームページより受付している。

[http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/event/fukyu\\_sendai.html](http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/event/fukyu_sendai.html)

2012 年度

# 流通 BMS 普及推進説明会

in 仙台

日時

3月21日

(木) 14:00~15:50 (受付開始: 13:30)



「流通ビジネスメッセージ標準」「流通 BMS」は一般財団法人流通システム開発センターの登録商標です。

プログラム (予定) ●定員 60 名 ※席数には限りがあります。定員になり次第締め切らせていただきますので、お早めにお申し込みください。

＜概要と普及状況＞			
14:00	●流通 BMS 協議会 (流通システム標準普及推進協議会)		事務局
14:30	(15分休憩)		
＜流通 BMS 活用事例＞			
14:45 セッション 1	●加藤産業(株)	システム本部 本部長補佐	高原 一夫 氏
15:15	(5分休憩)		
15:20 セッション 2	●イオングループ イオンアイビス(株)	システム開発本部 本部長	北澤 清 氏
15:50	(終了)		

※プログラム、講師は、予告無く変更となる場合があります。予めご了承下さい。

## リテールテック JAPAN で流通 BMS を紹介 セミナーで事例発表、展示会に 20 社が出展

当センターが特別協力して3月5日（火）から8日（金）まで東京ビッグサイトで開催されるリテールテック JAPAN2013（主催：日本経済新聞社）の流通 BMS 関連イベントについて紹介する。

### ●セミナー

3月7日（木）に開催される「流通システム標準化の最新動向」セミナーにおいて、下記のプログラムで流通 BMS の紹介を行う。

導入事例紹介の2社はいずれも流通 BMS 協議会の支援会員で、支援会員による事例の紹介は昨年に続く2回目。それぞれの流通 BMS 対応ソリューションを導入し、効果を上げているユーザ企業の事例が紹介される。

時間	テーマ	講師
10:00～ 10:10	流通 BMS の最新動向	(一財)流通システム開発センター 流通 BMS 協議会事務局 梶田 瞳
10:10～ 10:35	流通 BMS の導入事例(1)	(株)サトー ソリューション推進部 専門課長 高山 暁氏
10:35～ 11:00	流通 BMS の導入事例(2)	(株)ノーチラス・テクノロジーズ 代表取締役社長 神林 飛志氏



昨年のリテールテックセミナー風景

### ●展示会

流通 BMS 協議会が出展企業にアンケート調査をした結果、下記の企業から流通 BMS に関連した製品・サービスの展示を行う旨の回答があった。

流通 BMS 関連の製品・サービスを出展する支援会員

小間番号	社名
RT1101	日本電気
RT1102	富士通 富士通エフ・アイ・ピー
RT1105 (流開センター)	リテイルコム
RT1208	ビット・エイ
RT1224	サトー
RT1226	日本情報通信
RT1228	インターコム 大塚商会 トータルシステムデザイン けいしんシステムリサーチ サトー ニュートラル ユーザックシステム インテック サンケーバイナリィ テスク リテイルコム
RT1301	日立製作所
RT1305	サイバーリンクス
RT1404	東計電算
RT1409	テスク
RT1414	セイコープレジジョン

展示マップでこれらの企業名を色付けした資料を流通システム開発センターのブースに置き、来場者に情報提供している。



昨年の展示会場風景



## 2013年度 導入支援活動実績

正会員団体の定期開催会合へのオブザーバ出席

月日	正会員名	会合名
5月16日 9月27日 10月25日 1月31日 2月20日	日本チェーンストア協会	ICT委員会
5月31日 7月12日 9月6日 10月12日	(一社)日本アパレル・ファッション産業協会	情報システム小委員会
6月5日 10月16日 2月6日	日本チェーンドラッグストア協会	業界標準化推進委員会
10月11日	日本百貨店協会	流通BMS検討分科会
11月8日	全国菓子卸商業組合連合会	全国システム実務者研修会

正会員主催のセミナー等への講師派遣

月日	正会員名	会合名
5月22日	食肉流通標準化システム協議会	全体会議
5月31日 7月24日 7月27日 1月25日	日本スーパーマーケット協会 オール日本スーパーマーケット協会 (一社)新日本スーパーマーケット協会 (一社)日本ボランタリーチェーン協会	流通4団体合同 流通BMS普及説明会 5/31(大阪)7/24(札幌)7/27(広島)1/25(東京)
7月20日	全日本菓子協会	e-お菓子ねっと研修会
10月26日	(一社)日本加工食品卸協会	情報システム研修会
11月9日	日本アパレル物流連合会	OAP大阪アパレル物流協議会 合同部会 (百貨店・量販店・情報システム)
3月15日	日本チェーンドラッグストア協会	第13回JAPANドラッグストアショー 標準EDI(流通BMS)普及推進セミナー

小売業の取引先説明会への講師派遣

月日	小売業名	都市名
9月11日 9月12日 9月19日	(株)ヤオコー	川越
12月4日	(株)マツモトキヨシホールディングス	松戸
12月20日	コストコホールセールジャパン	川崎
1月16日 1月18日 1月21日 1月24日 2月7日 2月13日	全日本食品(株)	1/16(東京) 1/18(東京) 1/21(札幌) 1/24(仙台) 2/7(鳥栖) 2/13(大阪)
2月27日	(株)カメガヤ	新横浜



## 第11回 食肉卸業界

### JCA 手順の終息時期を示し 流通BMSへの移行促進を

食肉流通標準化システム協議会 会長  
(JA全農ミートフーズ(株) 情報システム部長)

沓澤 宏紀 氏  
くつざわ ひろき



生鮮三品の中で卸売市場経由率が低く、輸入割合が多いという特性を持つのが食肉。その中で、国内畜産産業振興を担うJAグループの牛肉と豚肉の販売を一手に担うのがJA全農ミートフーズ(株)。流通ではその独自性を発揮しながら、システムでは他の大手食肉加工メーカーと一緒にあって標準化に取り組んで来た。

その活動を強固なものとするために2006年に設立されたのが食肉流通標準化システム協議会。その会長を務めるJA全農ミートフーズの沓澤部長に業界のシステム化の状況について聞いた。

—まず、最近、食肉流通業界で話題になっていることについて教えてください。

**沓澤** 牛肉について注目される動きとしては、BSE(牛海綿状脳症)対策の見直しで厚生労働省が牛肉の輸入規制を2月1日に緩和したことです。米国など\*から輸入できる月齢が従来の「20ヵ月以下」から「30ヵ月以下」に緩和されました。

これによって、輸入品を取扱っているところは輸入先が増えるというメリットが期待できますが、我々JAグループとしては、輸入拡大によって国内畜産産業が圧迫されることを懸念しています。

※規制緩和の対象国は、米国、カナダ、フランス、オランダの4カ国。このうち、オランダのみ同国の要望により「12ヵ月以下」。

—次に、食肉流通標準化システム協議会の設立目的や活動内容について教えてください。

**沓澤** 食肉流通標準化システム協議会は2006年5月に、食肉流通の改善及び合理化の推進を目的に設立しました。メンバーは、8社・団体の幹事企業を中心に、23社・団体の専門部会委員、14社・団体の一般会員、その他の協力企業やオブザーバを含め合計で49社・団体に構成されています。

設立当初は「食肉標準物流バーコードの推進」が活動の柱でしたが、その後登場した「流通BMSの標準化対応」や「電子タグの活用検討」を加え、さらに3.11を経て「災害対策」を追加しました。

2011年度の活動を例にとりますと、UHF帯の電子タグの実証実験を行いました。フォークリフトに段ボール箱を20個積んで、入出庫時に通常のスピードで読み取らせましたが、実用化までにはさまざまな課題をクリアする必要があります。2012年度は災害対策や節電対応を優先したこともあって、電子タグ利用の検討は中断しています。

流通BMSへの対応では、流通BMS協議会のメッセージメンテナンス部会、物流システム部会、Web-EDI検討部会の活動に参加しています。



―協議会発足のきっかけとなった食肉標準物流バーコードの普及状況は如何ですか。

**沓澤** 牛肉はトレーサビリティ法への対応の必要もあって100%近く普及していますが、豚肉は約7割の普及状況となっています。古い計量器がだいぶなくなりましたので、以前に比べると表示されるようにはなりましたが、牛肉のような義務（牛トレーサビリティ法）がない分だけ少ないです。ただ、全国流通品に限れば9割くらいはついていると思われま

―それでは、本題である流通BMSへの対応状況についてお伺いします。

**沓澤** 協議会に参加している食肉卸7社を対象に昨年11月から12月にかけて、流通BMSの導入状況調査を行いました。その結果、7社中5社が導入しており、1社だけ70社を超える取引先との間で導入していましたが、残る4社は10社未満という状況でした。流通BMS対応の取引先は5社合計で約100社（延べ数）でしたが、その一方でそれ以外の手順（JCA、全銀など）の取引先は約1,000社（同）となっています。その中にはWeb-EDIも含まれます。

食肉の取引を考えると、EDIはWeb方式でないとなかなか難しい面があります。他の生鮮品や一般のグロサリー商品と違って、パック肉\*以外の食肉は、決まった発注日以外のイレギュラー発注が必ずあるので、オーダーがあるかどうかを毎日確認しなければなりません。

従来は電話やFAXでの発注であったものがWebに変わっても担当者の行為はそれほど変わりませんが、システムで取りに行くとそこに発注データがなかった時は、発注ファイルがないので取得エラーになります。取得エラーをオーダーなしとしたら、本当のエラーの時に困りま

す。そのような事情から、流通BMSへの移行が今ひとつ進んでいないものと思われま

※商品の形を変えながら流通する食肉は、その形状により枝肉、部分肉、精肉に分けられ、このうちスーパーなどでパックされて販売される精肉をパック肉と呼ぶ。

―流通BMSに変わると受発注のスピードが速くなるのが一般的な傾向ですが、食肉流通ではその効果はありますか。

**沓澤** スピードアップがリードタイムの短縮につながったという話をよく聞きますが、食肉は生ものですから、大量の在庫を長期間保存することは難しい商品です。また、肥育期間から見てその日に供給できる量はある程度決まっており、さらに、牛肉では、同じ部位でも1頭1頭の品質が違います。ご要望に沿った品質と量の商品を提供するためには、前日までにオーダーをいただいて、在庫の中から時間をかけて選んで納めることが必要です。

―最後に流通BMS推進に当たってのご要望などがありましたらお聞かせください。

**沓澤** 小売サイドは流通BMSに切り替えれば自社のシステムが変わって効率化できますが、我々はアンケート結果にもありますように、まだ従来手順が圧倒的に多い状況で、システムを全面的に変えることができません。この状況は未来永劫とは言いませんが、ここ5年、10年は続くと思われま

す。スーパー業界の方々には「JCA手順はなくすんだ」という強い意志の下に、具体的な終息時期を示してほしいということです。流通BMSが目指す流通全体の効率化を早く実現するためにも必要なことだと思っています。

（聞き手：坂本尚登、まとめ：梶田瞳）

## GS1-128 と物流ラベル

GS1-128 とは、AI (Application Identifier : 識別子) と呼ばれる識別コード番号により、流通・製造・物流・サービス分野における商品関連情報や企業間取引情報の表現方法を体系化し、「コード 128」というバーコードシンボルにより表現したものである。

AI は、GS1 識別キー (GS1 事業者コードを使用する GTIN、GLN など) 及びその属性情報である商品関連情報、及び企業間取引情報の種類とフォーマット (データの内容、データの長さ、使用文字種) を体系化、標準化している。

また、GTIN、GLN など GS1 識別キーに付属する情報として、商品関連情報には製造日、賞味期限、薬効期限、使用期限、製造番号、ロット番号等があり、企業間取引情報には注文番号、梱包番号、請求先企業コード、出荷先企業コード等の情報項目がある。GS1 識別キーと情報項目の先頭に、各データ項目を表現し、識別するために決められている AI (2 桁から 4 桁) を付けコードを構成する。GS1-128 バーコードとしてラベル上など

へ印刷表示し、商品パッケージ、段ボール箱、パレット等に貼付する。

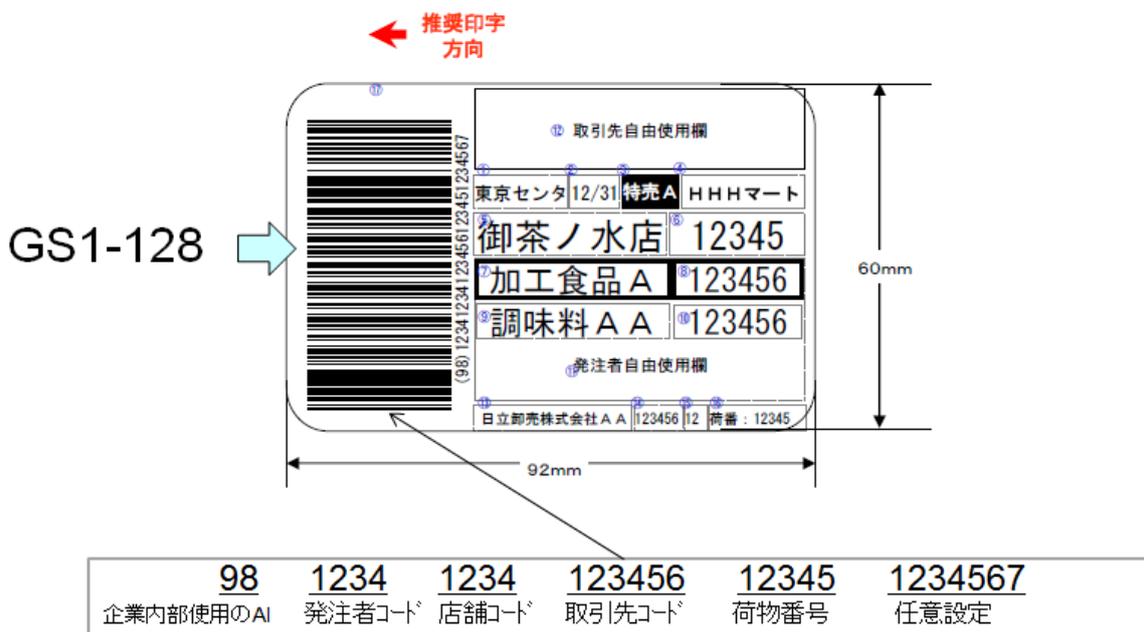
GS1-128 は、国際 EAN 協会 (現 GS1) が中心となって、米国コードセンター (UCC、現 GS1US)、及びアメリカ自動認識工業会 (AIM-USA) の協力によって 1989 年 2 月に標準化された。

開発当時は、米国コードセンター (UCC) と国際 EAN 協会が開発者として、また「コード 128」というバーコードシンボルにより各情報を表示しているため、UCC/EAN-128 と呼ばれていたが、両機関が統合し、GS1 となったため、06 年 1 月から GS1-128 と名称が変更になった。

国内では、流通 BMS 対応の物流ラベル (下図) をはじめ、食肉業界の標準物流バーコードラベル (普及状況は 10 頁参照)、医療機器や医療材料の統一商品コード表示、コンビニエンスストアなどでの料金代理収納用の振込票などに利用されている。

流通 BMS 対応の標準物流ラベル

### B1ラベル. 縦バーコード(28桁)\* <パターン2>





## 正会員

(2013年2月26日現在、50団体)

- |   |  |
|---|--|
| <p>オール日本スーパーマーケット協会<br/>                 (一財)家電製品協会<br/>                 酒類加工食品企業間情報システム研究会 (F研)<br/>                 情報志向型卸売業研究会 (卸研)<br/>                 食肉流通標準化システム協議会<br/>                 (財)食品産業センター<br/>                 (財)食品流通構造改善促進機構<br/>                 (一社)新日本スーパーマーケット協会<br/>                 (財)生活用品振興センター<br/>                 全国医薬品小売商業組合連合会<br/>                 全国卸売酒販組合中央会<br/>                 全国菓子卸商業組合連合会<br/>                 全国化粧品日用品卸連合会<br/>                 全国青果卸売協同組合連合会<br/>                 (社)全国中央市場水産卸協会<br/>                 (社)全国中央市場青果卸売協会<br/>                 (公社)全日本医薬品登録販売者協会<br/>                 全日本菓子協会<br/>                 全日本履物団体協議会<br/>                 全日本婦人子供服工業組合連合会<br/>                 (社)全日本文具協会<br/>                 (社)大日本水産会<br/>                 (一社)日本アパレル・ファッション産業協会<br/>                 日本アパレル物流連合会<br/>                 (社)日本医薬品卸業連合会 大衆薬卸協議会<br/>                 (社)日本衛生材料工業連合会</p> | <p>日本OTC医薬品協会<br/>                 (一社)日本加工食品卸協会<br/>                 (社)日本玩具協会<br/>                 日本化粧品工業連合会<br/>                 日本GC I 推進協議会<br/>                 (一社)日本出版インフラセンター<br/>                 日本スーパーマーケット協会<br/>                 (社)日本スポーツ用品工業協会<br/>                 日本生活協同組合連合会<br/>                 日本石鹼洗剤工業会<br/>                 (一社)日本専門店協会<br/>                 日本チェーンストア協会<br/>                 日本チェーンドラッグストア協会<br/>                 (社)日本ドゥ・イット・ユアセルフ協会<br/>                 日本歯磨工業会<br/>                 日本ハム・ソーセージ工業協同組合<br/>                 (一社)日本パン工業会<br/>                 日本百貨店協会<br/>                 (社)日本フードサービス協会<br/>                 日本文紙事務器卸団体連合会<br/>                 (一社)日本ボランタリーチェーン協会<br/>                 (一社)日本レコード協会<br/>                 (公社)日本ロジスティクスシステム協会<br/>                 協同組合 ハウネット</p> |
|---|--|

## 支援会員

(2013年2月26日現在、188社)

- |  |   |
|--|---|
| <p>(株)アール<br/>                 (株)アイ・シー・エス<br/>                 (株)アイシーエス<br/>                 (株)アイティフォー<br/>                 (株)ITビジョナリー<br/>                 (株)アイネス<br/>                 (株)アイネット<br/>                 (株)アグリコミュニケーションズ<br/>                 アクロスソリューションズ(株)<br/>                 (株)あじよ<br/>                 (株)アスコット<br/>                 (株)アットマーク<br/>                 アトラスシステム(株)</p> | <p>(株)アルケミックス<br/>                 (株)イークラフトマン<br/>                 イーサポートリンク(株)<br/>                 (株)イーネット<br/>                 eBASE(株)<br/>                 イー・マネージ・コンサルティング協同組合<br/>                 (株)イシダ<br/>                 伊藤忠テクノソリューションズ(株)<br/>                 (株)インターコム<br/>                 (株)インテージ<br/>                 (株)インテック<br/>                 (株)インフォマート<br/>                 (株)インフォメーションプロセッシングリサーチ</p> |
|--|---|



ヴィンキュラム ジャパン(株)  
 ウェブスペース(株)  
 (株)エイ・アイ・エス  
 エイジテック・アンド・ブレインズ(株)  
 (株)HBA  
 (株)エクサス  
 エス・エー・エス(株)  
 (株)エス・エフ・アイ  
 SCSK(株)  
 (株)SJC  
 (株)S-Parts  
 エス・ビー・システムズ(株)  
 NEC エンベデッドプロダクツ(株)  
 (株)NEC情報システムズ  
 NECネクソソリューションズ(株)  
 エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)  
 エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)  
 (株)エヌ・ティ・ティ・データ  
 (株)NTTデータNCB  
 (株)NTTデータ スミス  
 大阪市中央卸売市場  
 大阪商工会議所  
 (株)大塚商会  
 (株)岡山情報処理センター  
 沖縄流通VAN(株)  
 オフィスフナヤマ  
 オリパスシステムズ(株)  
 カストプラス(株)  
 (株)ガルフネット  
 キヤノンITソリューションズ(株)  
 (株)クライム  
 クラウドランド(株)  
 (株)ケイ・コム  
 けいしんシステムリサーチ(株)  
 K・ビジネスサポート(株)  
 (株)コスモコンピュータシステムズ  
 小林クリエイイト(株)  
 (株)コムアソート  
 (株)サイバーリンクス  
 (株)佐賀電算センター  
 (株)さくらケーシーエス  
 (株)サトー

サンケーバイナリィ(株)  
 (株)サンレックス  
 (株)シイエスシイ  
 GMOグローバルサイン(株)  
 シーガルサイエンティフィックアジアパシフィック(株)日本支社  
 SEEBURGER Japan(株)  
 (株)ジェイ・エス・エス  
 (株)JSOL  
 JBアドバンスト・テクノロジー(株)  
 (株)システム・トラスト  
 (株)システムベース  
 (株)シスラボ  
 シャープシステムプロダクト(株)  
 (株)ジャパンインフォレックス  
 SOOP(株)  
 (株)スコープ  
 住友セメントシステム開発(株)  
 セイコープレジジョン(株)  
 (株)セゾン情報システムズ  
 創玄塾  
 大興電子通信(株)  
 (株)大洋システムテクノロジー  
 (株)タドラー  
 TIS(株)  
 (株)DTS  
 (株)TKC  
 (株)データ・アプリケーション  
 テクトランシステム  
 (株)テクノプレーン  
 (株)デジタルコンセプト  
 (株)デジタルデザイン  
 デジタルトランスコミュニケーションズ(株)  
 (株)テスク  
 鉄道情報システム(株)  
 (株)寺岡システム  
 (株)寺岡精工  
 (株)デンソーウェーブ  
 (株)TOKAI コミュニケーションズ  
 東京システムハウス(株)  
 (株)東計電算  
 東芝情報機器(株)  
 東芝テック(株)



東北インフォメーション・システムズ(株)	富士ゼロックスシステムサービス(株)
(株)トータルシステムデザイン	富士ソフト(株)
トッパン・フォームズ(株)	富士通(株)
(株)トライ	富士通エフ・アイ・ピー(株)
(株)AAA システム	(株)富士通システムズ・イースト
(株)トレンズ	(株)富士通システムズ・ウエスト
西日本オフィスメーション(株)	(株)富士通総研
日経メディアマーケティング(株)	(株)富士通マーケティング
(株)ニッセイコム	フューチャーアーキテクト(株)
日本アイ・ピー・エム(株)	(株)プラス
日本アドバンスリーダーズソフトウェア(株)	(株)プラネット
日本経済新聞社	(株)フリーポート
日本事務器(株)	ベストパートナー(株)
日本情報通信(株)	(株)ハリオス
日本電気(株)	ポールスターロジスティクス(株)
日本ヒューレット・パッカード(株)	北陸コンピュータ・サービス(株)
日本ベリサイン(株)	ホンダロジコム(株)
日本ユニシス(株)	ミツイワ(株)
日本ラッド(株)	三菱電機インフォメーションテクノロジー(株)
(株)ニュートラル	三菱電機インフォメーションシステムズ(株)
ネオアクシス(株)	(株)南日本情報処理センター
(株)ネクステージコンサルティング	(株)Minor iソリューションズ
(株)ノーチラス・テクノロジーズ	(株)ミンクス
(株)野村総合研究所	メルシーネット(株)
パナソニック システムネットワークス(株)	(株)山清 (システム運用部)
パワー・ワークス(株)	ユーザックシステム(株)
(株)日立システムズ	(株)U-Think
(株)日立製作所	(株)ユニックス
(株)日立ソリューションズ・ビジネス	ユニバーサルフード(株)
(株)ビット・エイ	(株)ライドウェブコンサルティング
(株)ひむか流通ネットワーク	ライトシステムコンサルタント(株)
(株)ファーストテクノロジー	(株)ラック
(株)ファイネット	(株)リウコム
(株)ファインネット	リックシステム(株)
(株)フィンチジャパン	(株)リテイルコム
(株)フォーサイト	(株)リテイルサイエンス
(株)福岡CSK	(株)リンネット
福岡流通VAN(株)	ロジ共働促進(株)
富士ゼロックス(株)	(株)ワイ・ディ・シー

## 社名公開企業



流通 BMS 協議会では正会員、支援会員の協力を得るなどして、流通 BMS 導入済/予定企業を独自に把握し、それぞれの企業に社名開示の承認を得て公開しています。2013年3月1日現在の状況は下記のとおりです。

### 小売業

業態	済	予定	小計
スーパー	99	12	111
百貨店	8	2	10
ドラッグストア	5	3	8
ホームセンター	4	0	4
生協事業連合	3	0	3
倉庫型会員制ストア	0	1	1
ボランティアチェーン本部	0	1	1
ディスカウントストア	0	1	1
合計	119	20	139

具体的な企業名は下記サイトをご覧ください。

[www.dsri.jp/ryutsu-bms/info/info06.html](http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/info/info06.html)

### 卸売業・メーカー

業種	済	予定	小計
食品・飲料卸	55	0	55
菓子卸	18	4	22
日用品・化粧品 卸・メーカー	21	2	23
医薬品 卸・メーカー	5	2	7
アパレル・靴・スポーツ用品 卸・メーカー	23	11	34
食品メーカー	23	2	25
家庭用品 卸・メーカー	9	1	10
包材資材 卸・メーカー	11	9	20
玩具・ホビー 卸・メーカー	3	0	3
家電 卸・メーカー	1	0	1
その他 卸・メーカー	1	0	1
合計	170	31	201

(注 1) 上表の企業数は、社名公開企業の数であり、導入企業の数ではありません。

実際に流通 BMS を導入している、または導入を予定している企業数の一部です。

(注 2) 実際に流通 BMS を導入している卸・メーカーの企業数を調査した結果、5,200 社以上に導入されていると推測しております。(2012年12月現在)

## ロゴマーク使用許諾製品



流通 BMS 協議会では流通 BMS の標準仕様  
に準拠した製品やサービスに対して、流通 BMS  
のロゴマークの使用を許諾しています。

2013年2月28日現在の状況は下記のと  
おりです。

許諾総数：88 製品・サービス  
(提供企業数 46 社)

### 《87 製品・サービスの内訳》

- EDI (通信+XML) 製品：45
- サービス (ASP/SaaS)：33
- 通信基盤：4
- 認証サービス：3
- 物流ラベル作成ソフト：3

### 検索サービスの提供

上記の製品・サービスの詳細は下記サイトか  
ら検索することができます。

[www.dsri.jp/ryutsu-bms/info/detail.html](http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/info/detail.html)

**みんなつながる 流通BMS** 流通BMS ロゴマーク使用許諾製品  
検索システム

検索対象

詳細条件を指定してください。

導入形態  必須  自社導入  ASP/SaaS  
 通信手順  ebMS  AS2  JX手順(サーバ)  JX手順(クライアント)  
 流通BMS バージョン  
 基本形 Ver1.0  基本形 Ver1.1  基本形 Ver1.2  基本形 Ver1.3  
 生僻版(暫定)Ver1.0  生僻版(暫定)Ver1.2  
 百貨店版 Ver1.0  百貨店版 Ver2.0  百貨店版 Ver2.1

## 流通 BMS 入門講座



- 流通 EDI 入門講座、流通 BMS 講座（導入編）を一本化しました。
- 流通 EDI の基礎から流通 BMS の利用方法まで幅広く学ぶことができます。※参加費無料

### 流通 BMS 入門講座

対象者	これから流通業のシステムを担当する方、 流通 BMS の導入を検討しているユーザー企業の現場部門・システム部門の方、 上記ユーザー企業をサポートする SI 企業の方やコンサルタント等
プログラム	第 1 部：流通 EDI の基礎知識 流通、流通システム、流通 EDI の基礎など 第 2 部：流通 BMS の基礎知識 制定のねらい、標準化の内容、導入手順、導入効果、最新の状況など 第 3 部：流通 BMS の利用方法 運用ガイドライン※のポイントと見方など ※運用ガイドラインとは、流通 BMS の業務プロセスと各メッセージおよびデータ項目 について解説したものです。

**開催日・場所** 2013 年 3 月 7 日（木）13：30～16：30/受付開始：13:00～  
（一財）流通システム開発センター 2 階会議室（東京都港区赤坂 7-3-37 プラス・カナダ）  
**申込み方法** ウェブサイト上のお申し込みフォームよりお申込みください。

<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/event/edi.html>

※4 月以降も毎月開催しています。

## 流通 BMS 講座（導入編）



- 流通 BMS 講座（導入編）の今後の開催予定をご紹介します。
- ※本講座は流通 BMS 入門講座に統合しましたので、今回の開催をもって終了となります。

### 流通 BMS 講座（導入編）

開催日時	2013 年 3 月 15 日（金）13:30～17:00/受付開始：13:00～
会場	新大阪丸ビル別館 5-3 号室 （大阪市東淀川区東中島 1-18-22 新大阪丸ビル別館）
内容	流通 BMS 導入時の検討項目、業務プロセスモデルとメッセージ項目を説明。
対象者	流通 BMS の導入を検討しているユーザー企業の現場部門、システム部門の皆様、ユ ーザー企業をサポートする SI 企業やコンサルタント等
プログラム	第 1 部：流通 BMS 導入設計編（帳票とメッセージの対応） 第 2 部：流通 BMS 導入検討編（導入検討・導入効果分析）
使用する テキスト	流通 BMS 導入検討と運用設計ガイドライン・流通ビジネスメッセージ標準（基本編 Ver.1.3）メッセージ項目一覧

※参加費 3,150 円（テキスト代実費。事前振込制）

**申込み方法** ウェブサイト上のお申し込みフォームよりお申込みください。

<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/event/event01.html>



（一財）流通システム開発センターが主催している EDI 以外の入門講座をご紹介します。

## バーコード入門講座

第1部 JANコード・集合包装用商品コード・GTINの基礎	
13:30~15:00	(1) JANコード：コード体系、利用方法、申込方法など (2) 集合包装用商品コード：コード体系、利用方法など (3) GTIN (Global Trade Item Number) とは (4) その他関連事項
第2部 GS1-128・GS1 データバー・電子タグ(RFID)の基礎	
15:10~16:30	(1) GS1-128 コード体系、利用方法、業界動向など (2) GS1 データバー：シンボルの種類、利用方法、今後の動向など (3) 電子タグと EPC：電子タグとは、電子タグの特徴、電子タグの国際標準 コードである EPC など

### 開催日・場所

東京会場：2013年3月12日（火）、3月27日（水）

（一財）流通システム開発センター2F 会議室

大阪会場：2013年4月24日（水）

大阪商工会議所 6階 白鳳の間

申込み方法 ウェブサイト上のお申し込みフォームよりお申込みください。

<http://www.dsri.jp/semsal/seminar/barcode.htm>

## 電子タグ入門講座

### プログラム

- |  |
|--|
| (1)はじめに<br>(2)電子タグとは<br>(3)電子タグの活用シーンと導入事例<br>(4)電子タグシステムの導入に向けて<br>(5)EPCglobal 標準の紹介 |
|--|

申込み方法 ウェブサイト上のお申し込みフォームよりお申込みください。

[http://www.dsri.jp/semsal/seminar/epc\\_seminar.htm](http://www.dsri.jp/semsal/seminar/epc_seminar.htm)

### 開催日時・場所

東京会場

2013年3月11日（月） 14:00~16:30

（一財）流通システム開発センター2F 会議室



◇3月5日から8日まで東京ビッグサイトで「リテールテック JAPAN2013」が開催されています。1985年に晴海の見本市会場で「ストアオートメーションショー」としてスタートしてから29回目を数えます。

当センターは1回目から「特別協力」の形で展示とセミナー企画の両面で協力して来ましたが、今年も専用ブースで流通システムの標準化をアピールするほか、7日の「流通システム標準化の最新動向」セミナーで流通BMSをはじめとする最新動向を紹介します。

展示会場では、支援会員20社が流通BMS関連の製品・サービスを展示しています。(7頁参照) 当センターブースにそのマップを用意しておりますので、是非お立ち寄りください。

◇今年度の重点活動テーマのひとつ、標準外利用への対応について普及推進部会を中心に活動してきましたが、その結果を1月に東京と大阪で発表しました。(2~5頁参照) 「標準外事例の解説と標準採用の効果」と銘打った説明会には会員限定にも拘わらず、両都市で150名が参加、関心の高さを伺わせました。

受講者アンケートを見ても「具体的で参考になった」「標準に沿った使用の大切さを改めて感じた」といった感想が多く寄せられており、今後の継続的な活動が望まれています。協議会では今後も定期的の実態調査を行い、事例を公開していきます。

◇東京、大阪に続く普及推進説明会を仙台で開催します。(6頁参照) 経済産業省の標準化事業の頃は、各経産局所在地で普及説明会を開催していましたが、仙台でも度々開催しましたが、協議会発足後は初めての開催になります。企業名公開リストを見ても東北地区の導入小売業は少なく、地元の卸・メーカーから開催希望が上がっていたのに応えたものです。

同じような事情で開催希望があれば積極的に対応していきたいと思っておりますので、ご要望を協議会事務局にお寄せください。

◇最近の流通BMS導入企業名公開では「倉庫型会員制ストア」(コストコホールセールジャパン)、「ボランティアチェーン本部」(全日本食品)といった新業態の追加がありましたが、今月も「ディスカウントストア」(ミスターマックス)を追加しました。

福岡に本社を置き、九州、中国、関東で51店舗を展開するミスターマックスでは来年度(4月以降の期)の早い段階で流通BMSを導入し、約1年かけて現在のJCA手順から切り替える予定です。「ミスターマックスと取引するのであればEDIは必須」という形で推進していく予定です。

◇協議会も5月9日に開催する定時総会で新年度が始まります。早いもので、発足5年目になります。流通BMSの普及のスピードを落とさぬよう、関係各位のご支援・ご協力をお願いします。

(尚)

発行 : 2013年3月5日  
 発行人 : 流通システム標準普及推進協議会  
 (流通BMS協議会)  
 住所 : 〒107-0052  
 東京都港区赤坂 7-3-37  
 プラス・カナダ 3階  
 一般財団法人 流通システム開発センター内  
 Tel : 03-5414-8505  
 Fax : 03-5414-8513  
 E-mail : ryutsu-bms@dsri.jp  
 URL : www.dsri.jp/ryutsu-bms

